

令和5年度地震・津波防災訓練 (内閣府・鹿児島県西之表市)

実施報告書 (概要版)

鹿児島県西之表市について

鹿児島県西之表市は、本州本土最南端の佐多岬から南東に約40km、鹿児島市から約115kmの距離にある「宇宙に一番近い島、鉄砲が伝わった島：種子島」の北部に位置する。人口は約1万4千人で、島の面積の約45%を占め政治・経済の中心を担っている。年平均気温は19.5℃と大変温暖で、風光明媚、雄大な自然環境に恵まれ、3方を海に囲まれ美しい海岸が多数あることから、サーフィンやダイビングなど、マリンスポーツを楽しめる多くの観光スポットを有し賑わいを見せている。

市は、南海トラフ地震、種子島東方沖地震及びトカラ列島太平洋沖地震等が発生した場合に備え、様々な地震・津波対策を行っている。また、一年の内に4～5回、7月～10月にかけて台風が襲来して農作物を始めとする大きな被害を被る等の実情から、台風常襲地帯特有の対策にも力を注いでおり、各校区を中心とした地域住民等の防災意識も高い。

令和5年度は、下西校区をモデル校区として、避難行動要支援者（高齢者等）の個別避難計画を作成し、実際に実動による訓練を行った。次年度以降はこの手法をモデルとし市内全校区を対象とした同計画作成を推進することで、市内の各組織・住民等の役割分担を明確化し、災害発生時（恐れのある場合を含む）の情報・連絡、津波避難、安否確認等の充実を図る等、本年度の訓練成果を拡充し地域防災力の更なる向上に努めていく。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和5年11月12日（日）午前9時、マグニチュード8.7の地震（南海トラフを震源とする）が発生、西之表市において最大震度5弱を観測、最大10mを超える津波第一波が29分後に到達する想定で訓練を実施した。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和5年10月18日（水）18：00～20：30
 【地震・津波防災訓練】 令和5年11月12日（日）8：00～13：00
 【訓練実施後WS】 令和5年12月8日（金）18：00～20：00
- 主催：西之表市、内閣府
- 参加者数：1,865名
- 参加機関：市内全域の校区・自主防災会、警察（地元派出所）、西之表市消防団、陸上自衛隊、鹿児島地方気象台等
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、避難所開設訓練、炊き出し訓練、防災講演会、南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練等
- 訓練の特色：南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練（実動）を市として初めて実施するとともに、市内全域を対象に津波避難訓練等や防災専門家等による防災講演会を実施

訓練の成果

【成果】

- 市内全域において、地区防災計画・個別避難計画作成を推進するため、下西校区をモデル校区に指定し、訓練準備段階で避難行動要支援者（高齢者等）の自宅を対象とした事前の測量や住民聞き取り調査を実施して、地域の実情を確認するとともに、地震・津波防災訓練においては、南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難について、モデル校区長・集落長・集落支援員を始め多くの方々の協力・支援により、対象者の自宅から指定避難所への移動・受入等に関する一連の流れを実動により訓練する等、次年度以降の計画作成のモデルを構築することができた。
- 訓練実施前・実施後ワークショップ、地震・津波防災訓練を接続させ、各アンケート結果や実動による訓練の状況を映像で確認・共有するとともに防災専門家の「地震・津波からの避難」に係る講義と参加者によるワークにより、特に「地震発生時の危害からの回避要領」「自分が位置する場所の標高の正確な把握」「地震発生後の移動開始までに必要とする時間及び避難場所までの移動時間の把握」の重要性等についての理解を深め、更なる防災意識の高揚を図った。参加者からは、「日頃からの事前準備が大変重要であり、備えなければならない。」という意見が多く聞かれた。

【課題】

- 多くの方々（学校・職場、島内滞在者等）の訓練参加や、夜間や荒天時の迅速・安全な避難の実施等、想定外を作らない工夫が更に必要である。

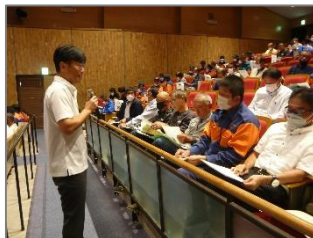
10月18日(水)18:00~20:30 訓練実施前ワークショップ

・自然の突発的な動きから逃れるために、地震時の避難環境に応じた避難行動、津波に備えるための標高の正確な把握、的確な安全確保要領の選択について、防災専門家の講義とワークにより理解を深めた。

▼防災専門家 岩船教授（鹿児島大学）の講義



▼ワークショップの様子（市民会館）



▼事前の測量等の様子（9/19~20に実施）



11月12日(日)8:00~13:00 地震・津波防災訓練

・午前8時から南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練を行い、一連の流れを確認した。
 ・午前9時に巨大地震が発生、29分後に最大10mを超える津波第一波が到達する想定の下、市内全域でシェイクアウト訓練、津波避難訓練等の実践的な訓練を実施した。
 ・市民会館では、避難所開設訓練、炊き出し訓練及び防災講演会（防災専門家、陸上自衛隊、鹿児島地方気象台）を行い、更なる防災意識の高揚を図った。

▼避難行動要支援者の早期避難訓練



▼津波避難訓練（家族で一時避難場所へ）



▼津波避難訓練（消防団による移動援助）



▼安否確認訓練（遡泊地域一時避難場所）



▼炊き出し訓練（女性分団のカレー調理）



▼防災専門家による訓練講評



12月8日(金)18:00~20:00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練の実施状況を映像により共有するとともに、これまでのアンケート結果等を振り返り、自宅や集落等における地震津波対策を考えるワークショップを行った。特に、個人・家族・集落でできる避難計画と今後行いたい避難訓練について意見交換を行うとともに災害関連死ゼロを目指した避難所の設営・運営要領等についての理解を深めた。参加者からは地区防災計画・個別避難計画の作成について建設的な意見が多く聞かれた。

▼ワークショップの様子（市民会館）

